

平成28年度
第2回北区まちづくり協議会全体会

会 議 録

日 時：平成28年11月16日（水）午後2時30分開会
場 所：札幌サンプラザ「玉葉の間」

1 開会

○司会（宇賀治市民部長）

2 あいさつ

○座長（新琴似連合町内会 虻川会長）

○藤井北区長

3 講演

○演題：「近年の大雨災害の状況と減災対策について」

○講師：北海道開発局札幌開発建設部河川管理課長 秋山泰祐氏

石狩川は全国第2位の流域面積を有し、北海道の面積の1/6を占める大河川である。石狩川流域には北海道の人口の約60%が集中しており、政治・経済・文化の中心地である。人口も増加傾向にある。一方で、高齢化が進み、災害時の避難支援が重要になってきている。

河川情報の流れであるが、まず気象台が予測雨量を出し、その情報をもとに開発局が洪水予測システムにより水位予測を出す。その後、気象台と開発局が共同で洪水予報を出す流れになっている。パソコンや携帯電話のインターネットを使用して「川の防災情報」も見られる。「川の防災情報」については、豊平川などに設置している看板にQRコードも掲載しており、そちらからも見ることができる。テレビのリモコンのDボタン（データ放送）でも河川情報が確認できる。

平成27年9月の鬼怒川の浸水被害等を受け、国土交通省では平成27年12月に「水防災意識社会再構築ビジョン」を策定した。これは全ての直轄河川とその沿川市町村において、平成32年度を目途に水防災意識を再構築する取組を行うというもので、主な対策としては、各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進するものである。

豊平川について、伏籠川流域を併せると流域市町村は4市1町、流域内人口は約220万人いる。札幌中心市街地は扇状地の上に形成されているが、石狩川下流の水害の特徴として、低平地が広がっていることから、広範囲に氾濫が発生しやすい。昭和56年の洪水では614km²にも及ぶ浸水面積となり、これは東京都の約3倍の面積になる。北海道の経済、文化、産業の中心である自治体が多く、浸水により行政機能を失う可能性がある。このため今後5年間で達成すべき目標として、広域かつ長期の氾濫に備え、また都市機能の被害を軽減するために流域タイムライン等のソフト対策により、「大規模氾濫に備えた迅速・確実な避難」「北海道の中核を担う石狩川流域の社会経済被害の最小化」を目指している。また、この目標達成のため「円滑かつ確実な避難行動」「社会経済被害軽減のための的確な水防活動」「社会経済活動の早期復旧」「市街地や地下空間への浸水から迅速な避難や早期復旧」の取り組みを実施することとしている。タイムラインには3つの要素があり、「いつ」「何を」「誰が」を事前に決めておくことをいう。滝川市では、タイムライン作成のための検討会を平成27年に発足し、平成28年8月に完成している。

近年は地球温暖化等により、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化している。堤防が決壊するような豪雨災害は、いつ、どこで発生してもおかしくないということ認識していただき、堤防整備などのハード対策に加えて、日ごろから水害対応をする準備、例えば、ハザードマップによる避難場所の確認、気象や河川水位情報の入手方法の確認などについて心掛けていただきたい。

<質疑なし>

4 意見交換及び発表

出席者がA～Dの班に分かれ、避難所運営において、地域住民がどのようなことができるのか、何をすべきかなどについて意見交換を行い、各グループから結果発表を行った。

<A班の発表>

総務グループを担当した。避難所では職員が交代すると伝達ミスが多くなるので注意が必要である。また、いかに速やかに町内会の運営体制を確立するかであるが、役割分担や組織化の事前準備が大切である。区のサポートも重要。地域に派遣される市の職員は既に決まっているため、事前に地域へ挨拶に行くなどして、人間関係を作っておくことも大切である。

<B班の発表>

情報グループと食料・物資グループを担当した。まず情報グループであるが、耳の不自由な人や言葉が通じない人に対する対応については、まず、避難所の中に手話ができる人がいるかどうか、外国語に堪能な人がいるかどうかを把握する必要がある。他には絵や掲示板、タブレットを使うことも有効。在宅避難者への情報提供については、まず対象者の名簿の作成を行う。地域FMラジオを利用することも有効である。高齢者や障害者に対しては、民生委員や社協、町内会と連携して情報伝達していく必要がある。行政からの情報収集・連携も重要である。次に食料・物資グループであるが、物資ごとに担当を決め、どのような物資があるかを把握する。日ごろの防災訓練等により備蓄物資を把握しておく必要もある。配給にあたっては公正性も求められるところである。

<C班の発表>

施設管理グループと救護グループを担当した。グループだけで施設全体を管理することは困難であるため、他のグループと情報共有などし連携していくことが重要である。救護グループについては、避難所に医療関係者がいるかどうかの把握が必要。高齢者には「おくすり手帳」を避難所に持参してもらうのがよい。基幹避難所である学校側とは事前に要介護者の部屋などを取り決めておくことが重要。

<D班の発表>

衛生グループを担当した。ペットと人は切っても切れないものになっている。学校には温室のようなものがあるので、そういった場所でまとめておくこととする。ボランティア統括グループについて、各部門のリーダーから必要な需要を確認し、なるべく希望に適したボランティアを活用していくことが大切である。

5 次年度のテーマについて

次年度のテーマを検討したい。当協議会ではこれまで災害について議論してきた。当初は地震について、昨年からは風水害も加えたところである。本日の会議により、さらに災害についての議論を深めていく必要があると思う。

については、来年度も災害をテーマにしたいと考えるがいかがか。ご意見をいただきたい。

<質問>

災害問題は当然やらなければならないが、高齢化の問題も心配だ。認知症の方もどんどん増えている。高齢者が自動車を運転しての事故も全国各地で発生している。免許の返納の問題とか、これからの高齢者に対する対策をどうするのかということを、災害と併せて真剣に考えていかなければならない。テーマの一つに入れてはいかがか。

<回答>

次年度のテーマについては防災としつつ、高齢化に対する対策なども視野に入れていくこととしたい。

6 閉会

○司会（宇賀治市民部長）